

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106688		
法人名	社会福祉法人 旭川荘		
事業所名	グループホームよいい川		
所在地	岡山県岡山市東区西大寺浜608		
自己評価作成日	平成21年10月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370106688&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成21年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接地には広々とした『リハビリガーデン』も整備され、ビートル犬のヨッシーも連れて、日に何度か散歩に出掛けます。また、ホームの前にはちょっとした畑があって、春にはたまねぎ、秋にはサツマイモの収穫をしました。日々の生活の中では、一人ひとりの生活リズムを尊重しつつも、家庭的な雰囲気を大切にしたい個別の援助に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西大寺・結びの杜に建設された県下初の「三世代交流センターよいい川」内に設置され、ボランティア・実習生がよく来訪。本人の思いを最大限に尊重するPCP方式(入居者中心の計画づくり)を取り入れ、個人に寄り添った安心・安全のケアが実践されている。運営推進会議が年3回でなく、地域密着型サービスに沿って開催回数を増やす工夫を期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自立」と「尊厳」を基本理念として”もてなし” ”こちよさ” ”きぼう”をサービスの三原則として共有し、利用者と一緒に職員も笑顔で日々過ごせるようにしている。	ケアマニュアルの中で職員に徹底し、ミーティングの時確認しあっている。重大なことばかりでなく小さな変化にも目を向けて、PCP(入居者中心の計画づくり)の実践に向けて日々ケアの中で頑張っている。	県下に先駆けて実践されている人間尊厳に繋がるPCP(入居者中心の計画づくり)のケア方針をさらに研鑽を加え、ノウハウを蓄積され、サービスの3原則が徹底されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所への散歩や買い物、また、愛犬ヨッシーを目当てに遊びに来てくださる方との交流や併設の子育て広場を利用される地域の親子との交流など、日常的に触れ合う機会は多い。	連日「子育てひろば」に5～6人の親子が来ており、敷地内が地域の散歩コースで、地域のボランティア・学生とビーグル犬を含めた来訪者とのふれあいの場となっている。近くの人や家族が野菜を持って来てくれる。	広い三世代交流センター内に設置され、研修施設などがあり多くの学生・福祉関係者、センターへの来訪者と触れ合うが、事業所自体が地域とさらに積極的・日常的に交流することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、学生やヘルパー講座受講者に、GHの現状や認知症ケアについての講義を行ったり、実習生・ボランティアも積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告や、参加者の意見交換・要望等受け、対応行うようになっている。評価についての報告は、現状報告を行うのみで活かされてはいない。	まだ地域に対して遠慮が有り会議だけでは話題も乏しいので家族会に絡めて昼食を食べながら2時間程度雑談したり工夫をしている。出席者の意向で年3回開催。家族会と合同で好評を得ている。	地域の情報が詳しく入るように地元の町内会とさらに深く密着し祭りや地域事業にもっと積極的に参加するなど、もう一步踏み込んだ地域交流と運営推進会議は年6回の開催を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議等に参加していただき、地域包括支援センター職員へ、利用者の暮らしぶりや、施設体制を伝え、利用者の受け入れや紹介、また、他施設や機関等の紹介など、連携図っている。	岡山市の地域包括支援センターに入居者の生活状況や施設の運営システムを情報提供し、他の施設との連携や関係機関との連絡などの情報を共有して連携を図っている。	介護保険の保険者である市とは運営推進会議のみならず日頃から連絡を密にし、様々な問題解決に一緒に取り組むように、さらなる積極的な連携を図られんことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	散歩・移動パン屋への買い物など、出かけたときには要望通り寄り添うようになっている。また、転倒のリスクの高い方へのケアについては、ご家族の理解・主治医と連携しながら、援助行っている。	身体拘束委員会が設置されているが、現実には身体拘束の事例は皆目無いので委員会には行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの理念を掲示するとともに、その都度、職員間で話し合うようにしている。管理者は、疲れやストレス等たまらないよう、職員の勤務への配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を利用されている利用者がいた時、また、必要と思われる利用者がある時は、随時、職員に説明行くとともに、関係者との連絡取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所の方針や、状態の変化等による対応可能な範囲についての説明を行っている。また、年2回開催している家族会においても、法改定等について、説明・相談等、随時、補足行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、毎月の手紙や面会に来られた時・家族会等、利用者の日ごとの状況報告を行うとともに、要望等お聴きしている。要望等は、ミーティング・申し送りノートで早急に対応するよう心がけている。	家族会を年3回と同時に運営推進会議を行い、ご家族の意見を吸い上げており好評を得ている。家族来訪時には、広いリビングやアイランド方式のダイニングで要望や提案を聞き、速やかに運営に反映するよう対処している。普段からご家族との関係性を構築している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティング開催し、意見交換を行っている。ケアや勤務についてなど、意見や要望を聞くよう心がけている。	管理者が現場にて入居者と係わることで意見を取り入れ、食事を外部委託に変更し、職員が入居者に関わる時間が多くなるように改善された。朝食はホームで利用者と共に調理している。入居者の状況に合わせ家具の配置替えなど管理者は職員の意見を業務全般の運営に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の趣味や特技を活かした役割分担行ったり、資格取得できるよう勤務の配慮等おこない、やりがいを持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、研修報告についても、ミーティングで発表したり、報告書も自由に閲覧できるようにし、知識の共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会へ入会し、情報収集を行っているが、会合・研修などへの接触的な参加はできていない。他の事業所との情報交換・見学は随時行うようにし、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者から要望・不安等を聞き、知りえた情報をミーティング等で話し合い、職員全員で共有し、支援を行っている。安心の確保のため、訴えに耳を傾け、コミュニケーションをしっかりとるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのご本人との関係やご家族の不安や要望等お聞きし、施設として『なにが出来るか』を話し合っている。面会時や、定時の状況報告等で、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接でご本人・ご家族から得た情報を元に、職員間で情報共有し、対応の検討を行っている。サービスが開始すると、必要なこと・修正すべきことを再度会議で話し合い、計画に反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の用意・味付けから、洗濯物たたみ等、生活全般において、利用者と共に行動し、互いを支え合うような関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時及び定期的に、利用者の日常生活の様子を家族に伝え、協力して頂ける事は、協力して頂いたり、利用料の支払いも、現金払いにし、足を運んで頂く事で本人との関係が途切れないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最寄りのお寺や地域の祭り等で、昔ながらの知人・友人に会ったり、ホームに知人・友人が会いに来てくれたり、また、ご家族とお墓参りに行かれる利用者もおられ、一人ひとりの生活習慣や交流の尊重に努めている。	かつて参加した西大寺の裸祭り見物に行き地域の皆さんと触れあいを楽しみ、家族と一緒に墓参りや実家の周りをドライブで回ってきたり、お風呂に入ってくることもある。いつも来るパン屋にも馴染み、馴染みの関係継続は支援されている。	入居者のこれまでの人間関係、地域での繋がりを詳細に把握し、可能な限り地域との接点を保ち、本人がより積極的に地域との関係を続けられるようにさらなる支援を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	回想ノートを活用する等して、思い出話や体験談を記録し、それを利用者同士で共有できるように職員が仲介役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ移られた方にも、馴染みの職員が会いに行ったり、電話で様子を伺う等、継続的な支援を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、ご本人の思いや意向の把握に努めている。また、ご家族の協力のもと、趣味嗜好等アセスメントし、日々の生活に生かせるよう努めている。	生活記録に入居者の言葉やつぶやき等が丁寧に記録され、個々の思いや意向を把握する姿勢が伺える。編み物・刺し子等の手芸、歌等の趣味、当日もフラワーアレンジメントを楽しむ人もあり、入居者の自己決定促進に添って支援している。	本人の言葉だけでなく日常の行動・表情からも気持ちをくみ取り、職員全員が入居者個々の気づきを大切にアクセスする姿勢は、サービスの3原則実現に近づくものと期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の体験談や思い出話、また、ご家族の方からアセスメントを行い、性格やライフスタイルを把握し支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの1日の出来事や状態、関わりを記録し、職員全体で共有している。また、日課を作らず、利用者の意向を聞き、その日に出来る事、したい事を優先し、取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の変化を部屋担当を中心に意見交換し、利用者の立場で考えられることを職員全体でモニタリングし、計画している。	各居室を2～3人のベテラン・新人を組み合わせた担当制を取り、日々相談して一人の目ではつかめない多くの情報が得られるようにし、特に変化が無ければ介護度の更新時にモニタリングとプラン立案をしている。	これからもさらにアセスメントとモニタリングを繰り返し、入居者本人がより心地よく且つ希望を持って暮らせるように計画立案を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態の変化や暮らしの様子を記録や申し送り・介護ノートなどで職員が共有し、部屋担当・ミーティングで、日々の介護に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の人格・ペース・好みなど尊重し、一人ひとりを理解して、職員はご家族にも協力いただきながら、柔軟に対応し、穏やかな日々が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りへの参加、お店の利用、また併設施設の催しなどへ参加している。リハビリガーデンでは、四季の移り変わりを楽しんだり、地域の人との関わりの場にもなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元委員の医師による月1回の往診や歯科医の必要に応じた往診もある。今までとおりのかかりつけ医の受診では、家族と職員が同行し、日々の様子や変化を伝えている。	毎月1回往診が有り、医療機関の要請により前もってFAXで現状を連絡している。岡大などかかりつけ医以外に行く場合は家族の要望で職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情を見逃さないように、毎日バイタルチェックを行い、早期発見に取り組んでいる。体調変化があれば、かかりつけの医療機関に相談、早期受診をし適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、支援方法に関する情報提供を行い、入院中はお見舞いに伺い、状況把握し、医療機関とのカンファレンスで得られた情報は持ち帰り、職員間で共有、退院後も適切なケアができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合のあり方について説明、納得していただくとともに、本人・家族の意向を大切に施設としてできる限りの対応に努め適切な時期に適切な対応を見極めながら、家族・医療機関と連携し、職員一同、意識統一し取り組んでいる。	現在終末ケアはしていない。家族によく話して特養に順番待ちしておき、重度化した場合は入院か特養に移るか選択して貰う。ミキサー食までは対応出来るが、口径摂取不可になった時点で再度家族と相談している。	安心・納得の人生実現のケアには本人・家族との早期の話し合いと関係者の方針統一を練り、将来に於いての終末ケア要望に備えておかれることを勧めます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生マニュアルを作成し、周知徹底図っている。また、救急法・AEDの研修行ったり、食中毒・インフルエンザ・誤嚥予防など、ミーティングで取り上げて、話し合いを繰り返している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し、防災管理者の指導の下に、定期的に併設施設と合同で、利用者とともに、防災訓練(地震・消火器・避難)を実施し、反省点は、次回訓練に活かすように心がけている。	地震・災害対応マニュアルを設け、防火管理者を指名して防災消防関係綴りを纏め、同じ建物なので三世代交流センター中心に年3～4回訓練している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の生い立ちや、性格等をご本人やご家族から情報収集を行い、取り扱いと管理を徹底している。利用者の気持ちを大切に、気づきや気遣い、やさしい言葉がけをするよう心がけている。	グループホームよしい川個人情報保護方針に基づき入居者のプライバシーを守ると同時に、認知症ケアの大原則を4項目定め高齢者の尊厳に留意して、安心安全のケア実践に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、難聴の方には筆談にしたり、答えやすく質問を工夫したり、眼で見て選んでもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お1人お1人のペースを大切に、買い物や散歩がお好きな方など、訴えられたときには、ご希望に沿うようにしている。その日の状態を把握し、柔軟に対応し、穏やかに過ごせるよう支援行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れ等、気を配るようにしている。また、2ヶ月に1回の散髪、お好きな方には、お化粧品やマニキュア・ハンドマッサージなども行っている。利用者同士で服装・おしゃれの話などもできており、関心は高い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	匂いや音に敏感に反応して声をかけてくださる方がいたり、材料を切ったり、味付けや皿洗い等、一緒に調理行っている。また、利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しい食事になるよう心がけている。	アイランド方式のキッチンで向かい合い、音と匂いを共有しておしゃべりしながら、家庭の延長の感じでそれぞれのペースで楽しく食事している。野菜洗いや下膳を一緒に手伝う人もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下機能の低下した方には、ミキサー食・とろみ等で介助の方法を工夫したり、摂取量の少ない方には、食べたい物を、食べたいときに召し上がっていただけるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせて口腔ケアを行っている。また、毎日の体操・歌で嚥下機能のリハビリも行い、誤嚥性肺炎予防にも心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の際、自尊心を傷つけないように配慮し、さりげなく声かけて排泄介助行っている。訴えない方は、個々のサインを見逃さないようにし、定時・随時にトイレ誘導を行い、排泄支援行っている。	個人個人の排泄サインを把握して定期的に誘導、紙パンツやパッドをしている人もいるが、出来るだけトイレを使い自立に向けた排泄支援をしている。清潔安全を目指し適時な支援で心地よい快適環境を原則としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らず、繊維質の多い食材を提供し、水分補給の徹底、毎日の適度な体操・散歩で自然排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきに入浴実施しているが、失便・発汗・ご希望等あった場合は、その都度対応している。また、音楽をかけたり、入浴剤を入れたりして、ゆったりとくつろげる環境にも配慮している。	檜葉で作られた浴槽、リフトが着いて車椅子でも可能な設備がある広い浴場で、BGMを流し、ゆっくり入浴を楽しむようにしてある。一人で入りたい人には職員は外で待っている。	機能・システムには入浴を楽しむ工夫もあるが、一人ひとりの生活習慣やその時点での本人の希望を斟酌し、より家庭的な雰囲気を感じられるような工夫を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の落ち着ける場所(ソファ・畳等)で過ごしてもらい、一人ひとり孤立しないよう話をしながら一緒にテレビを観たり、また、運動・散歩等気分転換をし、夕方から夜間にかけて不安・不眠にならないよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルを作成し、往診・診察で変更があれば連絡ノートを活用する等して、職員全体で把握するようにしている。また、状態変化等にも気をつけ、報告している。誤薬・飲み忘れのないよう気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までして来た事の経験を生かし、家事・庭の手入れ・野菜・花壇づくり等している。また、毎晩ではないが、お酒の飲める飲めないに関係なく、夕食後に集い、職員と一緒に団欒している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	西大寺近辺の方が多いため、共通の思い出場所も多く、外出は楽しみの一つである。中でも『裸祭り』の行われる観音院は人気である。要介護度の高い方でも、短時間の外出・隣接の施設での食事など状態に合わせて支援行っている。	以前定期的に2、3日おきの買い物は、現在不定期に、ホームの車で買い物に行くこともある。同じ敷地内の食堂で外食する時もあるし、重度の人もリフトカーで外出支援することもある。	広い敷地内のガーデンで自然に触れて過ごすこともあり、外からも来られる人も多いが、敷地外への日常的外出についてボランティアなどを開発して工夫されることを勧めます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	夏祭りの夜店・学院祭等は、小額ではあるが個々でお金を持ち買い物をしている。また、買い物が好きな方は、ご家族の協力のもと、自分で小遣いを管理し、嗜好品等の買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の書ける方の場合、はがきや便箋の購入からポストへの投函まで楽しみながら一緒に行っている。電話についても、ご自分でダイヤルすることが困難な方には、取次ぎから終了まで中継ぎを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースでは職員も可能な限り同じように使用し、気づきを得られるようにしている。装飾に関しては、作り手・飾り手の個性をアクセントにベーシックな形を維持するように配慮している。	広いリビング、アイランド方式のキッチン。ソファや椅子が適宜配置され、畳のコーナーもある。廊下も広く観葉植物も置かれ、壁面には外出や行事の写真・ちぎり絵が飾られ全体として明るく、淡い色調になっており、居心地良く過ごせる空間が整えてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居後、それぞれが落ち着く場所で、お互いに気持ちよく過ごせるよう声かけしながら見守り行っている。また、皆で過ごす時間と、個別に過ごす時間にメリハリをつけることにも気をつけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた整理ダンス・寝具・お好みの装飾品など、持ってきていただいている。新たに必要となったものは、ご本人とご家族と相談しながら、買い物から配置まで一緒に行うようにしている。	ベッド・洗面台が備え付けられ、筆筒・テレビ・椅子、冷蔵庫を持ち込む人もある。花や写真を飾り、マットを敷いたり個性溢れる心地よく暮らせる個室づくりが見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレに表札をつけることで、場所を認識できるよう工夫している。能力はさまざまなので、日々の小さな気づきを情報交換し『出来る』『わかる』を継続していただけるよう配慮している。		